

2級建築施工管理技術検定試験対策講座の日程変更のお知らせ

○「令和2年度2級建築施工管理技術検定試験対策講座」は、下記の理由により令和2年2月2日(日)からの開講に日程を変更し、実施することになりました。

○変更に至った理由

平成30年度より2級建築施工管理技術試験の実施方法が変更になったことによります。従来2級建築施工管理技術検定試験の学科試験の中の施工法に関する問題は、建築、躯体、仕上げの受験種別毎に選択し解答を行っていましたが、平成30年度より学科試験は受験種別に関わらず統一問題となり、実地試験の施工法に関する問題が受験種別で出題されることとなりました。

変更により、学科試験の施工法が従来は受験種別で30問から12問選択（2グループの15問から6問選択）が、15問から12問選択となりました。選択肢が狭まったにもかかわらず建築全体からの出題となり、躯体、仕上げでの受験者には大きな労力を要することとなりました。このため、11月に学科と実地を同時受験しての一発合格は難しい状況が派生しています。また、学科のみの合格率も低下しています。

逆に学科が統一試験になったことにより、従来6月に実施されていた学科試験（前期）は建築のみ受験が可能でしたが全受験種別が受験可能となりました。

このことから、前期試験の6月に学科を受験し、後期試験の11月に実地試験を受験することが可能となりました。

○前期で学科試験・後期で実地試験の受験のメリットとして

- ① 学科と実地を分けて学習することで、合格率が高くなる。
- ② 万が一学科試験不合格でも、後期（11月）試験で、学科と実地を受験できる。

（年2回の学科試験の受験が可能）

③ 講習会が3週に1回となり受講し易くなる（昨年度までは2週に1回）。

④ 実地試験の体験記述の面談による添削指導の時間が取れる。

○ デメリットは

① 学習期間が長くなり、受講者に油断が生まれる。

② 受験手続が2回必要になる（受験料総額は変わらない）。

ことがあげられます。

○ 昨今の2級建築施工管理技術検定試験の問題の難易度も上がっていることを踏まえ、2月開講といたしましたので、受講希望者にご周知頂けますようお願いいたします。

職人学校講習会と検定試験の流れ

